

『ショーシャンクの空に』

1994年／アメリカ／フランク・ダラボン監督作品

理不尽で残酷な現実を前に
最後に出す結論は…

会員 関原 秀行 (63期)

『ショーシャンクの空に』
ブルーレイ ¥2,500 (税込)
DVD ¥1,500 (税込)
ワーナー・ホーム・ビデオ



本作は、自由を奪われた男が「希望」を捨てずに懸命に生きていく姿を描いた作品である。

先が読めないストーリーに加えて、ラストに至るまでに様々な伏線がちりばめられており、何度見ても飽きさせない作品に仕上がっている。

銀行員としてエリート街道を歩んでいたアンディ（ティム・ロビンス）は、妻とその愛人を殺した罪でショーシャンク刑務所に投獄される。

刑務所に入った当初は、周りの囚人から暴行を受けていたアンディだが、過酷な日々を乗り越え、他の囚人や刑務官と交流を深めていく。

元々優秀な銀行員だったアンディの力を見込んだ刑務官たちが税務処理を頼もうと長蛇の列をなして待っているコミカルな場面や、モーガン・フリーマン演じる調達屋のレッドをはじめとする個性あふれる囚人仲間たちとの温かい交流が映画の中では描かれている。

終身刑を言い渡されたアンディの刑務所生活は、何年にもわたり、いつしか刑務所の図書係を任されることになる。知的で本が好きなアンディは、ボロボロだった図書室を清掃し、中古の本を取り寄せ、見違えるように充実した設備に生まれ変わらせる。そして、アンディは、高校を卒業していない囚人たちを教育し、高卒資格を取らせていくようになる。

それは、他の囚人を手助けするためだけではなく、アンディ自身が何か目標を持つことで、狂いそうな心を正常に保とうとする意味もあった。

そんなある日、アンディの無実を訴えようとした教え子である囚人が刑務所長に撃たれて死んでしまう。アンディに裏金作りを手伝ってもらっていた所長としては、アンディの無実が明らかとなり刑務所からいなくなってしまうと困るのだ。そして、アンディ自身も懲罰房に入れられてしまう。

無実の自分がなぜ刑務所に投獄されなければならないのか、自分の無実を訴えようとした者がなぜ殺されなければならないのか、理不尽で残酷な現実を前にアンディが最後に出す結論は…。

衝撃のラストは是非ご自分の目でご覧になってください。

今回、原稿を書くにあたって本作品を見直しましたが、何度見ても、結末が分かっている、やはり面白いと思いました。

少しでも興味を持った方は、深く考えずに素直な気持ちで観賞してみてください。エンドロールが流れるころには、胸の中を風が吹き抜けるような清々しい気持ちになっていると思います。